

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

田原 実です。よろしくお願いします。

以下、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

質問1、スムーズで安心・安全な新型コロナウイルスワクチン接種、ウィズコロナ時代の地域医療体制確保について。

- (1) 糸魚川市の新型コロナウイルス感染の現状について、特に市内感染者と感染経路の調査結果の公表、感染者の治療、入院、回復の状況報告及びテレビ等で報道されている感染拡大した場合の保健所対応や、自宅療養中の重症化など、市民の不安解消への市の取組について伺います。
- (2) 糸魚川市の新型コロナウイルスワクチン接種の状況について、8月までの接種率及び今後のワクチン接種の見込み、ワクチン供給量とスケジュール等について伺います。
- (3) デルタ株への変異とさらなる変異による感染拡大への対応について、子供たちへの感染拡大への対応について、妊婦及び家族へのワクチン接種対応について伺います。
- (4) ウィズコロナ時代の地域医療体制確保について、市内基幹病院である糸魚川総合病院と市外、県外の病院、富山大学との連携について、ウィズコロナ市民医療フォーラムの開催などについて伺います。
- (5) ウィズコロナ時代の地元での医療人材確保策について、医師・看護師育成につながる医療教育の推進について、市長が進める看護師養成学校等の設立等について伺います。

質問2、被災者住民、地区の要望が反映され、地域住民が主体的に活動し元気に生活できる、住んでいる人が主人公となる復興計画の推進について。

- (1) 市が進める駅北大火からの復興まちづくりは、被災者や地域住民に寄り添うものとなっていますか。例として買物をするところがないという住民の声は今も大きく、市長は市内全体の課題、民間業者がやるべきこととしていますが、いつまでそのままにしておくのか伺います。
- (2) 3月定例会の私の一般質問において米田市長は、「にぎわいづくりが今若い人たちも取り組んでおられます。そういったところを、また住民の皆様方にどのような形で進めていかれるかという課題も、その中で取り組んでいただければありがたいなと思いますし、行政もそういったところの中において、加わりながら対応していきたいと思っております。今の復興計画のみならず、そういった課題というものはあるわけですので、しっかりとその辺も考えながらいきたいと思っております。」と答弁していました。

行政もにぎわいづくりの役割を担うということは何となく分かるのですが、にぎわいが生まれるには、誰が、何をどのように、いつまでに進めるのか、改めて具体案、具体策を伺います。

- (3) 市が取得した旧東北電力株式会社糸魚川営業所と宮田ビルの敷地は、周辺の土地・建物と連携させて、地域住民が望む公民連携の空間として生かすと同時に、新幹線糸魚川駅から歩

いて5分の目の前は日本海という好立地を生かした空間として、活用することは誰しもが考えることだと思います。市の考える具体案を伺います。

(4) にぎわいの拠点としてつくったキターレの現状と課題について伺います。

(5) 糸魚川本町通り（旧加賀街道）のイメージ形成、雁木の街並みや優良な住環境の形成で、住んでみたい街、訪れたい街を実現する取組について伺います。

質問3、人口減少問題への対策、糸魚川市の戦略と成果について。

(1) 平成27年策定、平成30年改訂、糸魚川市総務部企画定住課編集発行「糸魚川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」によれば、人口減少対策の方向性として、当市の魅力発信による定住人口の拡大、魅力発信の方法が記載されています。ここで示されているところの、市民やUIターンを希望する方が幸福感を得られる取組は実行され、成果を上げていますか、伺います。

(2) 人口減少対策の5つの戦略とはどのようなものですか。具体的に説明願います。また、ここで示されているところの、「ライフステージの見える化と5つの戦略について、市民、企業、行政などが話し合い、それぞれの役割に応じた取組を展開することで、人口減少の克服を目指します。」とする取組は実行され、成果を上げていますか、伺います。

(3) 人口維持なしには自治体の存続はあり得ません。人口減少を市長以下、副市長、市職員の皆さんはどのように捉えておられますか、伺います。

(4) 北海道夕張市の財政破綻を見れば、著しい人口流出と過大となったインフラを持ち切れずに、焼け石に水という状態の中で破綻してしまったと捉えています。そのまま糸魚川市に当てはまるものではありませんが、じわじわと状況が悪くなっているのではないかと危惧します。その対策としてファシリティマネジメントの推進が必要と考えますがいかがですか、伺います。

(5) 人口減少問題への対策、戦略を上越市、妙高市と比較したことはありますか。また、糸魚川市の戦略で秀でたものは何だとお考えですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、新型コロナウイルス感染症に関する対応は、県が中心となっていて行っておりますが、市民の不安解消につながるよう、県と連携して取り組んでおります。

2点目につきましては、現在、集団接種会場と各医療機関の個別接種でワクチン接種を進めております。

8月31日現在、対象者の59.6%が2回目までの接種を完了しており、11月には希望者への接種を完了する予定であります。

3点目につきましては、ワクチン接種をすることが感染予防に有効であることを、さらに周知してまいります。

4点目につきましては、県、医師会、糸魚川総合病院、富山大学病院など、関係機関と連携し、対応いたしております。

地域医療フォーラムにつきましては、地域医療の現状を周知する機会となっております。

5点目につきましては、引き続き、関係機関と連携し、医療人材確保に取り組んでまいります。看護師養成学校の誘致・設立につきましては、関係者と実現に向け、調査してまいります。

2番目の1点目につきましては、被災者・関係者説明会、区長等との懇談会などにより、意向把握に努め、被災者の早期再建と被災地の復興に寄与したものと考えております。

また、全市的に生鮮食料品等の買物に不便を感じている方への対応といたしまして、移動販売を実施する事業者を支援しており、引き続き、情報交換を行うとともに支援してまいります。

2点目につきましては、多くの皆様と協議を重ねる中、市民がやりたいことを実践し、生き生きと暮らしていることで、町を訪れる人や関わる人が増えていく展開が必要だと考えております。

3点目につきましては、市といたしましても好立地・好条件の土地・建物だと考えており、まずは、市民の皆様の意見を聴きながら活用を考えてまいります。

4点目につきましては、市民の活動や民間企業の営利活動、中高生の学習の場など、多様な皆様からのご利用をいただいております。今後も居心地のいい場所として、多くの皆様からご利用いただけるような施設環境づくりに努めてまいります。

5点目につきましては、雁木のある町並みと様々な活動など、公民連携でエリアの復興につなげております。

3番目の1点目と2点目につきましては、人口ビジョンの人口減少対策の方向性や5つの戦略を踏まえて総合戦略を策定し、複数の事業を展開することによって基本目標の達成に向け、取り組んでおります。

3点目につきましては、総合計画の重点課題として設定しており、市の事業のほとんどが人口減少対策や人口減少社会への対応につながっているものと思っております。

4点目につきましては、公共施設等総合管理指針を策定し、施設などの適正管理に努めております。

5点目につきましては、それぞれの市で特色を生かした人口減少対策を行っており、当市では、自然資源や交通インフラの充実など、強みを生かした施策を展開いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

再質問は、順番を変えて質問の3、人口減少問題の対策からお願いします。

人口ビジョンにある市民やU I ターンを希望する方々が、幸福感を得られる取組は実行され、成果を上げているかについて。あわせて、ライフステージの見える化と5つの戦略の成果について、恐れ入りますが、企画定住課より詳しく説明願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

では、お答えいたします。

まず、まち・ひと・しごと創生、平成27年度から第1期という形で進めてまいりました。まずは、第1期の地方創生の部分につきましては、まず、相対的には移住定住に対する制度の仕組みづくりであったのかなというふうに思っております。

その中で、制度をつくる中でもやはり若年層が非常に糸魚川市は少ないということで、糸魚川のやっぱり暮らし方、楽しみ方、そういったところの情報発信、特に糸魚川へお越しいただいた方で活躍されている方を取材いたしまして、そういった方からの情報発信というのものに努めてまいりました。

そのほか若者の多様な出会いの場ですとか、つながりの場、いわゆる活動・活躍ができるという事業もくみ上げながらライフステージを考える中での取組を進めてきておりますし、また、地域の魅力を向上するという一貫としてもやっぱり住み続けられる町、自分たちが、この町が本当にいいんだという取組ができるように、地域ごと、特に公民館単位になりますが、地域が抱える課題の解決に向けた住民の皆様との自主的な活動、それと行政が連携した地域づくり活動、そういったところを進めてきたというのが、第1期であったというふうに思っております。

その結果といたしまして、今日、本日の近藤議員のご質問にもお答えいたしましたが、平成28年度は29人、平成29では36人、令和元年度では64人という形で、制度をつくったおかげで移住される方のカウントも正確にできてまいりましたし、コロナ禍ではございますけども、順調な取組に進んできたのかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

成果は上げているよということなんですけども、全体的に見たときの人口減少というのは、止まってないと思うんですけど、その辺はどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに人口の減少というのは、議員が言われたとおり確かに減少しております。合併した当時は5万ちょっと出るぐらい、今はもう4万人というところになってますので、議員のおっしゃるとおり、数の上では歯止めはかかってないというのは減少であります。

ただ、やっぱり人口の構造を見てきますと高齢化率も40%を超えている。年齢の高い層が非常に多い。やはり死亡される方が多いということが特徴的になっておりますので、その点を踏まえて、今後の取組は進めていかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今日は課題をしっかりと共有したいということで、この質問を上げました。

人口減少には、様々な策が立てられています。しかし、なかなか功を奏しません。

そこで、つい私たちは、人口減少を当たり前のものと考え、地域の活力が失われていく一番の減員を人口減少とし、特効薬はないと言い訳をするようになっていないか。

しかし、人口維持なしには、自治体の存続はあり得ません。今回の質問に際し、恐れ入りますが、糸魚川市の行政のリーダーの皆さん、それぞれのお立場からの人口減少への対応策を伺いたいと存じます。

恐れ入ります、副市長の立場からお聞かせください。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

人口減少対策なくして、市の発展あるいは市の維持はできない最重要課題だというふうに思っています。人口ビジョンの中で掲げた戦略については、それぞれの施策・事業と絡めて実施しておりますけれども、一定の成果はあるというふうに思っていますが、それで全てが解決するかというと、そういった状況にはないというふうにも捉えています。特に、私が課題だというふうに考えているのは、若者、特に女性の流出だというふうに思っています。この部分については、これからの施策の展開の中で、私自身も積極的に取り組んでまいりたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

教育長の立場から、お聞かせください。ご答弁をよろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

田原議員の質問にお答えいたします。

糸魚川市は、一貫教育の柱の中にキャリア教育というふうなものを位置づけて、小学生、中学生、高校生まで、一貫した形でもってキャリア教育充実しています。特に小学校では、職場の見学、あるいは地域のプロから直接学校に来ていただいて出前授業、たくみの技を直接学ぶというふうな部分、それから修学旅行の一環としても本物のプロから直接学ぶ、そのことを通して、将来どんなふ

うな自分の夢の設計を考えていくかという機会をつくっています。

中学校になりますというと職場見学、それから5日間の市内の事業所の職場体験というふうなもの位置づいています。そこでも直接働く人たちと一緒にあって、どういう仕事をどんなふうな思いで、どういうふうに頑張っておられるのか、働く意義や糸魚川のよさなども話してもらうように働きかけております。

特に昨年、中学校3年生がキャリアフェスティバルという大きな取組を糸魚川市で初めて立ち上げ、大きな成果を上げて終了することができました。今年も第2回目のキャリアフェスティバルに向けて実行委員会を立ち上げて、鋭意、準備を進めている最中でございます。昨年よりは今年は、事業所の皆様の協力も得られまして、多くのブースの開設に基づいて、直接生徒が市内の事業所で頑張っている人たちとのふれあいを通して、糸魚川のよさ、働くことのすばらしさ、そして、将来の設計についても直接アドバイスを頂くという機会が位置づけられています。

高等学校になりますというと、今現在、高校魅力化プロジェクトの本格的な実施が今年度から始まっています。

昨年度は、北陸大学の藤岡先生が統括指導者になっていただきまして、大がかりな市内の高等学校の調査が行われました。その調査の分析に基づいて、糸魚川市の3高等学校が、これからどういうふうな視点で改善し、見直しを図り、将来に向かってどういうふうに生徒が関わっていけばいいのかという貴重な提言も頂いております。その提言に基づきながら、特にその中でも重視しているのは、コーディネーターの設置に基づいて、地域と学校と行政とをしっかりとつないで、課題解決に向かってほしいという助言も頂いております。特にその中でも、地域の課題を地域と協働しながら、生徒が地域の課題に向かって参画する。その中でもって、本当に糸魚川の課題は何なのか考え、そして将来に向かっていく大きな方向を定めていくというふうな設置を今現在考えている最中でございます。

徐々に高校魅力化プロジェクトのほうも軌道に乗っていきますというと、より一層、地域を愛する生徒、一旦卒業しても、また入ってくる。ブーメランのようにして、また帰ってくるというふうな人と人の絆をうんと丁寧につくってあげるのが、地域協働型の活動だろうと思います。汗をかいて、地元の大人と生徒が、本気になって地域課題に解決していく。その活動を始めることによって、地域の人と高校生とがつながる。人間的につながるといふ絆を大事にしていく。そんなきっかけづくりを本年度から本格的に実施したいというふうに考えています。

したがいまして、キャリア教育の充実をうんと頑張ることによって、人口減少の大きな対策の一つになるというふうに、私は考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

総務部長の立場から、お聞かせください。ご答弁をよろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

総務部といたしましては、やはり人口減少対策といたしまして、移住定住施策と関係人口の増加の取組について、着実に進めていくことが重要と考えております。

また、併せて人口減少社会に対応した財政運営についても極めて重要なことというふうに考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

産業部長の立場からお聞かせください。ご答弁をよろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤喜代志君登壇〕

○産業部長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

産業部としましては、やはり道路や橋りょうといった、こういった生活のインフラ、それをまず維持、効率的に効果的に維持していくということが大事になってまいりますが、そういったものについても、やはり仕事として成り立っていく部分があるかというふうに考えておりますし、ほかの1次から3次までの産業についても今まで培ってきた様々な技術や知識、そういったものを継承していく、そういったところが重要になってきて、そういった仕事があるよと。そういった仕事が魅力的なものだといったことが伝わるようにしていくことで、糸魚川にも非常にすばらしい仕事があるんだ。しっかり食っていけるんだ。なおかつ糸魚川が持っている豊かな自然やそういった資源、そういった中で豊かな心で暮らしていけると。そういったものを伝えられる。そういったような産業部としての政策につなげていければ、人口減への役割を果たしていけるのではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

産業部長、お尋ねします。

仕事づくり大切ですが、糸魚川の賃金が安いというその点についてはどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤喜代志君登壇〕

○産業部長（斉藤喜代志君）

基本的には、いろんな形でのそういった賃金が安いというお話もあろうかと思えます。

しかし、やはり生活の中で、要は自分として使える賃金と、やはり東京とかと比べたら賃金は安

くても糸魚川ではしっかりと豊かに暮らしていけるんだという、また水準というのは別にあるかと思えます。賃金も上げていくような形を、産業部としては進めていかなければなりませんし、そういったところと合わせて糸魚川での生活、そういったものが成り立っていくという形、それを目指していかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

あと市民部長の立場からお聞かせください。ご答弁をよろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

市民部のエリアとしましては、健康づくり、あるいは福祉の充実、ごみ処理を始めた環境の充実といったことが範疇になるわけですが、そういった中で市民の皆様が安全で安心して生活できる体制をつくっていくと。そのための施策を着実に積み上げることが大事だと思っておりますし、それによって住んでいる人が、住んでいてよかった。これからも住み続けたいといったまちをつくるということが一番大事だというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

私からは、人口減少の市財政の影響と公共施設の維持費を観点として質問を続けてまいります。

1市2町が合併して抱える数多くの公共施設の維持費や長寿命化対策には、今後、多額の経費が見込まれます。

一方、人口減少による市民税などの減収、地方交付税の減額で行政サービスを維持する財源確保ができない事態となることも懸念されます。その対応策の一つが、ファシリティマネジメントの推進です。

私は、2年前に千葉県佐倉市に調査に行き、報告もしましたが、ファシリティマネジメントの必要性和効性について、また、糸魚川市の今後の取組について、財政課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

ファシリティマネジメントにつきまして、議員おっしゃるように、この人口減少などの社会情勢や財政状況から鑑みますと、大変公共施設の総合的な管理、また、財政面を含めた大きな視点で立

ったマネジメントというのは、とても必要であると認識しておりますし、重要であると認識しております。

28年3月になりますが、公共施設の総合管理指針を策定しておりますし、この3年3月にも1回見直しをさせていただいております。現在、利用状況につきましては、施設のコストなどと、あと利用状況、こちらのほうを集約しました施設カルテを作成しております。今後の施設の在り方につきましては、このカルテを活用いたしまして検証し、対応してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今の公共施設の維持経費を賄うとしたら、将来どれだけ公共施設の床面積を削減する必要があるかというデータを作り、議会、市民に示していくことが必要。その上で、削減削減だけではなくて、必要な施設の建て替えの際には、複合化や集約の手法を用いることにより、市民サービスが低減しないように施策を進めていくことが重要と、私は2年前の政務調査報告に所見を書きました。事前に届けてありますが、この点について企画定住課では、どう捉えていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員からファシリティマネジメントの報告書の件がということですが、まずは安易に公共施設の削減という考え方で進めていってはいけません。やはりそこを利用される市民の方がいらっしゃいます。そういった利用の状況も考えなければいけませんので、単純に利用率だとか経費がかかる。単純に削減という考え方で進めてはいけないというのが、まず私の第1点です。

もう一つは、やはり複合化を進めるに当たっても住民のやっぱり合意形成というのが必要だと思うんですね。やっぱり住民との話し合いによって複合化を進める。それと同時に、やはり効率性を上げていくということと。

あともう一つは、公共施設とサービスの質を上げていく。具体的などころはちょっと申し上げられませんが、サービスの向上ということにつながっていかないと、なかなか住民の皆さんにはご理解いただけないと思いますので、そういった住民の合意形成、単純な削減だけではなくて合意形成を図りながら何とか質を上げる。民間の力も、どこか公共なんですけれども取り入れて進めていく。こんな考えで進める必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今聞きたいところをみんなお答えいただきました。でもせっかくなんで、都市政策課にも伺いたいと思いますけども、同じ内容で建設を進める担当ですよね。糸魚川の地場産業は、土木建築だと

いった中で、これからの取組について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ファシリティマネジメントにつきましては、ちょっとまだ私、勉強不足で詳しくはあまり承知できないんですが、まずつくるという切り口でお話しさせていただきますと、例えば建設課長もおりますが、土木施設である場合には、まずもって安全であること。これは第一だと思います。それ以外にも、その場所に適したスペックであること。また、長く使うということ意識したということも必要かと思えます。

あと財政課長、企画定住課長もありましたけど、建設のときだけではなくて、維持管理も考慮した、いわゆるアセットマネジメントというような考え方というのが、まだ道路の商売的な活用というところまでは進んでいない地方の中小都市では、そういう考え方が今主流なのではないかなと思えます。

一方、建築物に関係する、言い方は悪いですけど箱物のようなものに関しましては、今度、施設がある、その施設の種類と場所にもよるかと思いますが、今ほどのアセットの考え方に加えまして、そういう土地も含めてそういうものを資産と考えた、少し経営的な感覚というのを取り入れていくというのが今後の在り方ではないかというふうに、私は考えます。そういう意味で土地とかそういう施設、そのために公民連携という手法ですとか、議員言われとった複合化ということも、当然視野に入れていかなければいけない取組であるというふうに考えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

さて、人口減少問題の対策・戦略を上越市、妙高市と比較したことはありますか。また、糸魚川市の戦略で、秀でたものは何だと考えますか。この点、改めて詳しく企画定住課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

まず、上越市については、やはり上越3市で人口が非常に大きい、面積も大きいですし、中核になってまいります。

上越市は、やっぱりものづくり産業に特化した、産業分野での強力な推進というところを総合戦略の第一義に掲げているということが見えてまいります。

妙高市のほうは、まちづくりにやっぱり多様に関わってくれる。関係人口というふうに申し上げ

ましよう。関係人口の創出が、特徴であるというふうに思っております。

3点目の議員は、では糸魚川市で秀でたものは何かというところになりますが、第2期、今、総合戦略を令和2年度から取り組んでおりますが、今度は、糸魚川市としては、まず1つとして森林ですとか水資源、そういったいわゆる地域資源というふうによく答弁をいたしますけども、そういったものの活用と、あと糸魚川のライフスタイルを生かしたものの、住民にとっては日常であるものが、訪れる人によっては非日常を感じてもらえる。そういった意味でのワーケーションをはじめとした交流事業というものが、進めていきたいなというふうに思っております。

もう一つは、先ほど教育長からも答弁ございましたように、郷土愛の醸成を図るという視点で、子ども一貫教育に取り組んでおります。今では、高校の魅力化というところの視点を取り入れた点に、今動こうとしているというところであるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

上越市と比較した場合には、上越市では2つの大学、教育と看護の大学があることを人口減少問題への戦略に使えるという強みがありますね。

一方、糸魚川はどうですか。この点について、改めて教育長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

確かにそういう視点で大学が設置されていない糸魚川市ですけれども、人口減少に絡めまして言うと、先ほど私のほうが説明いたしました高校魅力化プロジェクト、その推進によって魅力ある高等学校が地元にあるということが徐々に浸透しますと言うと、今まで市外に進学していた生徒が、市内にとどまるようになるというふうな関係。あるいは、他市からどんどん糸魚川のほうに通う生徒がいる。あるいは籍を移して、糸魚川で学ぶ他市の子供たちが増えるというふうな効果を、私は長期的な見通しの中で期待しています。それが1点です。

それからもう一つは、糸魚川市は今までいろんな機会に努力しながら、専門の大学機関と協定を結んできています。今コロナの関係でちょっと交流・連携というふうな部分のところはストップしてまますけれども、その辺の部分をもう一回よく精査しながら、教育の分野で専門機関とのつながりがある。それで実績を上げていくというふうな部分も大いに期待していきべき内容だろうというふうに思います。長期的には、やはり専門機関の研究機関が糸魚川市にはないので、そこら辺りどういうふうな分野で、どういう規模のものが、どんなふうな条件がそろえれば設置できるのかどうなのか。そこら辺りのよく情報を収集しながら、あるいはいろんな人たちとの意見交換しながら、ぜひそういったチャンスがあるならば、あるいはチャンスをつくるように、私どももやっぱり努力しながら、教育機関の専門家を糸魚川市に設置するというような方向も、ぜひこれは夢ではないというふうに、私は思ってます。地域の熱が、どこまで高まるか。その一つの大きな起爆剤が高等学

校の魅力化だろうというふうに、私は思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

教育でも負けないぜということを確認し、理解しました。よろしくお願いします。

また、医療、出産、育児ということにおいて、上越市へ人が流れていくことで糸魚川の人口減にますます拍車がかかるのではないかということも心配します。その対策を進めないといけません。これは副市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

先ほどの私、それから教育長、各部長の答弁と重なる部分があるかもしれませんが、お答えさせていただきます。

まず、人口ビジョンに掲げる政策については、しっかり展開していきたいというふうに思っています。

それから、先ほど教育長のほうから話があったんですが、1例として申し上げますけども、キャリアフェスティバルの中で、地元の企業あるいは事業所の認知度が非常に高まってまいりました。事前と事後のアンケートを実施したんですけども、事前のアンケートでは、地元で働いてみたい、将来、働いてみたいと答えた生徒が44%だったんですけども、事後のアンケートでは81%まで伸びているという結果でございます。これは一時的なものかもしれませんが、こういったものをしっかり継続していくことと、次の課題としては、保護者の皆さんに、これはしっかり理解してもらうといった活動が必要になってくると思います。

またもう一つは、糸魚川高校におきましては、地域課題、探求の学習をやっておりますけども、この中で地域の皆さんとか市の職員が講師となって課題を拾い上げるわけですが、この中でやはり医療・福祉という問題が出てまいります。その中で、高校生が自ら考えて課題の解決に取り組むわけですが、この中で糸魚川高校の学校要覧にあったんですけども、本年3月に卒業しました160人の生徒のうち、医療系の学校に進学した方は40人ほどおられます。これは全て看護師ということではありませんが、これまで進めてきたキャリア教育ですとか、ふるさと教育の成果だというふうに思っています。

また、コロナ禍で一時的に医療職を目指すといったことがあるのかもしれませんが。こういった例をお示しする中で、先ほど私、若者・女性というふうに申し上げたんですが、その根拠が今申し上げたことでございます。

これからも産学官、それから地域の皆さんと一緒に、取組を進めて人口減少を少しでも歯止めをかけるように進めていきたいというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

前教育長が、現教育長のことをフォローして、強く訴えていただきましたので、よろしくお願ひします。

市民部長、要は医療とか育児の環境が、上越よりも糸魚川のほうが、いま一つというような評価がある中で、糸魚川はどうしたらいいということを私聞きたかったんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川市は、上越市やほかのところより医療が劣っているということは決してないと思います。もしそういうことを思われるのであれば、私どもなり説明が不十分なのかなと思っております。ぜひ糸魚川市の医療について、熱い思いのお医者さん、医療関係者の皆さんたくさんいらっしゃいます。その中で、人口規模の中で不足する部分は多少あるかも分かりませんが、市民の皆さんが、糸魚川に住んでいて安全・安心の医療体制は十分確保できていると思っておりますので、健康増進課を中心になって、ぜひそこの辺りを知っていただくということも大事なのかなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

先ほど企画定住課長から、定住を促進する住み続けたいまちというようなこととお話しいただいたと私は理解しております。これも1つの糸魚川の戦略として、今後考えていく必要があるのではないかと思ひます。

今、現にその現場があります。それは、駅北復興まちづくりです。そこにおいても、住み続けたいまちというものが一番大切と思ひます。それには、住んでる人が主人公になること、なれることではないかと思ひます。この点について、企画定住課に伺ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、地域づくりのほうも地域の課題を解決するというのが第一義なんですけど、やはりその奥にあるのは、住み続けられるまちということになります。地域づくりプランのほうも、一応5年というスパンでやってきましたけども、それが終わったところも含めて、次は住み続けられるうち、

特に地域振興という点と、あとは地域の支え合い、特に福祉ですとか防災の面ですとか健康づくりと。そういった支え合いというところの視点を入れて、何とか住民でできるところは住民で支え合う。そこへはやっぱり行政もしっかり連携する中で、足りない部分は、行政は当然、手を差し伸べますし、一緒になってやっていこうという形で地域担当職員、それから集落支援員、そういった人的なところの支援も引きながら、何とか可能な限りは住み続けられる地域というところで進めているところでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

手法も大切ですけども、実際そうなるかというところがとても大切ではないかなと思います。人口減少問題の対策は、議会でももっと取り上げるべき課題と考え、質問させていただきました。今回の質問、僅かな時間でしたが、最後に、今後の市の取組を市長からしっかりお答えいただきたい、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

冒頭の答弁でもお答えさせていただいたように、やはり人口減少社会、人口減少対策については、糸魚川市の最大重要課題の一番に私はあると思っております。それに対しては、今いろんな行政の施策と、そして住民の皆様方としっかりスクラムを組むことが大事だと思っております。やはりどっちに依存してもうまくはいかないのではないかな。非常に課題というのは大きい課題でございますので、そういったところをしっかりとお互いに共有することが大切であろうかと思っております。そういったところをしっかりと根っこの部分といいたいでしょうか、根底の部分でそういったところをやはりみんなで共有しながら、施策に対して対応していきたいと思っております。引き続き、この行政に対してのご理解をいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、質問の1に戻り、新型コロナウイルス感染の現状について再質問します。

市民からは、感染者の行動歴、感染経路、濃厚接触者をいつまでも調査中のままにしておいて、個人情報保護、人権への配慮、行動制限を市民に求める糸魚川市の情報の出し方では、安心・安全どころか不信感が増すだけだ。県内どこでも同じような情報開示なのかと問われています。本当に市民のことを考えていますか。市民部長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

これまでも繰り返しご説明させていただいたところでありますけども、感染者の行動歴等の調査は、感染症法に基づき、感染拡大防止と個人情報保護の観点から、県が事案ごとに判断して公表しておるもので、市は、県の情報に準じて情報提供しており、詳細を承知しているものではありません。これは新潟県に限らず全国で同じ考え方に基づく取扱いとなっており、何とぞご理解をお願いしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

県の方針で感染経路は調査中というまななんです。

一方で、感染経路不明者は、糸魚川は県内でも少ないですよ。これが感染経路不明者グラフでありまして、頂いたもんですけども、上越市が35%、糸魚川市は27%。ということは、糸魚川市は73%は分かっているのに県の指示で調査中として隠し、その後の報告もしないのは市民を軽視しているという市民の声もあります、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほども説明させていただきましたように感染者の行動歴等の調査、これについては保健所を所管する県が行っておりまして、公表時点では感染経路が不明であっても、その後調査を進めることで経路が明らかになる事例もあるというふうに考えております。

ただ、最終の調査結果については、市のほうには知らされませんし、市のほうでは、実は承知しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、次に、8月までの市内感染者の数を伺います。入院、重症化された方は何名ですか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

8月までの市内感染者数は、44名です。また、市内感染者の詳細を県に確認しましたところ、市町村ごとについては公表しないということでありました。あくまでも感染症法に基づく感染拡大防止のための情報公開であるという観点から、県としては、感染者の療養先でありますとか症状で

ありますとか、回復された方の情報については、公開をする予定がないということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

自宅療養中に保健所の対応を待って、重症化した事例が報道されておりました。これを見て、聞いて、不安に思う市民は多い。市内の状況はいかがですか。もし、対応を関係者で話し合っていれば、市民に公表すべきではないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

療養中の情報でありますとか、重症化した事例などにつきましては、市では承知しておりませんが、自宅療養中の対応については、県の医療調整本部、自宅療養グループが担当しております。看護師による健康観察を行っており、仮に症状が悪化した場合には、速やかに入院調整等を行うというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

次に、コロナワクチン接種の状況を詳しく伺います。

8月までの年代別接種率を詳しく、今後のワクチン接種の見込み、ワクチン供給量とスケジュールについても年代別に詳しく教えてください。

あわせて、前回も伺いましたが、上越市、妙高市との比較も数値で教えてください。担当課に詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

8月末までの2回目の接種率は、65歳以上が92.1%、12歳から64歳は34.7%です。

今後のワクチン接種については、必要なワクチン供給量を確保した上で、10月末には集団接種を終了し、個別接種を継続し、11月には希望者への接種を完了する予定であります。

ほかの状況であります。ホームページによりますと65歳以上の2回目の接種率は、県平均が90.0%、上越市は非公表、妙高市は91.3%です。

12歳から64歳については、県の資料によると8月30日現在、2回目完了の接種割合は、県平均が28%、上越市、妙高市が35%以上となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

ワクチン接種の方法、会場、市民周知について確認します。

集団接種、個別接種共に順調ですか。他市に比べて遅れていることはありませんか。あるいは、他市に比べて優れた取組はありますか。また、供給されるワクチンは、有効に使われるように市が考えて、工夫していますか。担当課に詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

ファイザー製のワクチンの供給が7月に大幅に減少したことから、一時的に集団接種の予約を停止しましたが、8月からはワクチン供給量は減少したものの、一定の量が確保できる見通しが立っています。9月にはモデルナワクチンを確保し、安定的に接種ができる体制が出来上がっているところでございます。

今回のワクチン接種に当たっては、糸魚川総合病院、医師会と密に連携しながら、個別と集団接種会場の組合せにより、救急対応を含め、医療対応が整った体制の中で接種が進められた点が強みであったというように感じております。

また、供給されるワクチンが有効に使えるように急なキャンセルの連絡対応等、医師会や糸魚川総合病院の先生方とも一緒に考えながら対応を進めてきたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

若い人たちにも接種するワクチンは、確保されていくということでもよろしいですかね。

それで、その中で若い人たちが気にしている副作用の状況と、その公表についても伺いたいと思います。

また、メーカーによる副作用の違いについて、市で情報があれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

副反応につきましては、接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、発熱等が見られます。ファイザーのワクチンよりもモデルナのワクチンのほうが、発熱や接種部の周辺が赤くなることなどにおいて、副反応の発生頻度は多いという報告がありますが、大部分は接種後、数日で回復しているという状況であります。ぜひ皆さんから接種していただくようお願い申し上げます。

てるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

職域接種で使われているモデルナ社のワクチンの、この副反応が心配で受けたくないという若い方たちの心配を払拭しないとワクチン接種が進まないの、その辺りの情報をもうちょっとしっかりと、これから出すべきではないかなと思います。

続きまして、子供たちへの感染拡大とその対応について、健康増進課と教育委員会に伺います。

感染拡大の予防、ワクチン接種への正しい知識の提供について、私は、子供たちへコロナ感染予防は、親、家族の正しい行動からと思いますが、学校や園の役割もあると思います。その取組について担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

当市におきましても8月以降、子供たちへの感染が多くなってきております。まず、子供たちの周りの大人がワクチン接種と感染予防の徹底を図り、子供への感染防止に努めるよう今後も取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

園・学校の立場から申し上げます。

園・学校の役割は、子供の偏見等を生まないように、あるいは過度な不安感を与えないように感染予防、あるいはワクチン接種に対する正しい知識・情報を子供たちや保護者に提供することである。

また、ワクチン接種については、身体的な事情とか、あるいは個人の判断に基づく意思決定というものを尊重しなければならないということを、子供たちによく理解できるように指導していくことだというふうに考えております。学校の保健指導や道徳の時間などを通じて指導し、子供たちに対して、自分ごととして考えさせられるように学校現場に働きかけてまいります。また、保護者に対しても随時啓発を続けていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

午前中の利根川議員への答弁とも若干重なる部分なんですけれどもお答えください。

仮にですが、親が子供へのワクチン接種や感染してしまった子供の世話ができない場合の対応は、市で行うことはできますか。いろんな状況を考えてしまい、仮の話で申し訳ありませんが、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

現状におきましては、感染した子供へのお世話につきましては、子供にとりましても家族が行うことというのが一番望ましいというふうに考えておりますけども、市としてどのようなサポートが可能なのか、検討も必要だというふうに考えております。子供への感染防止の観点から、子供の周りの大人からは、ワクチン接種をいただくことが望ましく、引き続き、啓発に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

支援を必要とする家庭の中には、ワクチン接種、それから感染してしまった子供の世話というのが、大変切実な問題であるというふうなことはあり得ることです。教育委員会としては、先ほど健康増進課長が申し上げたとおり、行政として家庭の状況や困り感を伺いながら、他の課あるいは関係機関と連携しながら対応方法について一緒に考えて支援を行っていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

全ての子供が安心できる環境を糸魚川市がつくるということで、確認させていただきました。

次に、妊婦さんと家族のワクチン接種対応について、また、ふだんより脆弱な糸魚川の医療体制における感染した妊婦さんへの対応、救急搬送先確保に不安がありますが、その現状と課題について、担当課に詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

妊婦やその家族につきましては、ワクチン接種のメリット、それからデメリットを判断の上、接種を希望する方については、早めに接種いただくよう周知しております。

また、妊婦を含む感染者の健康観察につきましては、保健所が丁寧に行っており、症状が悪化した場合は、速やかに救急搬送できる体制が整っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、次は、（4）ウィズコロナ時代の地域医療体制確保について、詳しく伺います。

市内基幹病院である糸魚川総合病院と市外・県外の病院、富山大学との連携について、ウィズコロナ市民医療フォーラムの開催等について、担当課に詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

富山大学とは、医師派遣による地域医療体制の確保と高度医療の提供で、引き続き連携していく必要があるというふうに考えております。また、上越医療圏での連携により、救急医療体制の確保を継続する必要があるというふうに考えております。

地域医療フォーラムにつきましては、地域医療の現状と課題を市民にお伝えし、市民総ぐるみで地域医療を考える機会として開催してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

次、（5）ウィズコロナ時代の地元での医療人材確保策について伺います。

今回のワクチン接種が、市内の潜在看護師の現場復帰の機会となることを期待します。ぜひそうなってほしいと思いますが、現状はいかがですか。雇用条件をよくして、看護師さんを増やすことはできませんか、市長に伺います。

また、小学校、中学校、高校での医療教育を推進して、看護師育成につなげていくことを期待します。ウィズコロナで変わるであろう教育体制を、むしろ医療従事者を増やすチャンスとしていただきたい。ピンチをチャンスに変える。羈本教育長のお考え、何か新しい教育ビジョンがあれば、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、地域医療の中において医師不足、看護師不足、非常に大きな課題となっておるわけでありませう。そういう中でのコロナ禍、非常に私といたしましても、看護師の環境が非常に悪くなるのではないかと非常に危機感を持っておりました。

しかし、地域医療の中において市内の医療機関、また、糸魚川総合病院の看護師さん、非常に積極的に対応いただいております。非常に私は、接遇どうのこうのというような課題も非常に大きく

出てくるのかなと思っておりましたが、そういったところを乗り越えて、今ウィズコロナ、また、コロナ禍において対応いただいていることに対して非常に感謝いたしておる次第であります。

そういう中においても我々といたしましても、これからの看護師環境、または医師環境をしっかりと課題として、行政として対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

ご質問にお答えさせていただきます。

今ほどの医療教育の推進というふうなご提案なんですけれども、子供たちの教育活動の中で医療教育の推進に特化した形で子供たちへの教育活動については、なかなか実現は難しいと思います。

だがしかし、この社会情勢を鑑みましたときに、その必要性については十分私も承知しております。

したがいまして、先ほどもお話をずっとしてまいりましたけれども、子供たちの発達段階に応じたキャリア教育の場面で糸魚川市の現状や医療従事者に携わる方々のとても大切な仕事を担っているということを、危機的な状況になったときにやっぱり医療に携わった方々のお力を借りなければやっぱり命を救えないんだというふうな生命教育にもつながる部分については、やはり日常的な社会情勢も伝える中で糸魚川市の課題等も子供たちに働きかけ、子供たちに考えさせるというふうな機会は、十分に時間をかけて進めていく必要があるというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

十分にご答弁を頂いたと思います。医療の質問の最後に、米田市長が進める看護師養成学校等の設立等について伺います。

言い方は悪いですが、市長は選挙対策で掲げたものの、現実味がない話だとの声も聞きます。でも私としては、ぜひ実現していただきたい。糸魚川の医療と未来の子供たちのために、この質問の最後に市長の決意を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

冒頭の答弁、また、途中での答弁にもございますように、やはり地域医療にとって医師と看護師は絶対不可欠であるわけであります。そういう中で糸魚川のふるさとの子供たちが、医療に対するその熱い気持ちも十分に我々は把握いたしたわけがございますので、地元でそういった熱い気持ちを教育できないかというところをしっかりと私は考えながら、どんな形になるか分かりませんが、

やはりそういった学べる場、そして、そこで育てていける場をつくっていききたいという考えで、そういうその思いを選挙の中で声を出させていただきました。当然それに向かって、今進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございます。強く強く、前へ前へと押し進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、質問2の再質問をいたします。この質問のために先月末に、私は大町区の住民の方々と意見交換しました。これを参考に再質問したいと思いますが、新鮮な食材や日用品の買物ができる環境の整備推進について、改めて都市政策課に伺います。

また、先ほどお答えいただきましたが、住み続けたいまちとは、どんなまちだったか、改めて企画定住課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

日用品の買物ということで、今、商工観光課長もおりますので、私としては、少し総枠的な少し答弁をさせていただきます。

まず、今回の復興、駅北大火を受けまして、私どもでつくりました復興計画、ここににぎわいのあるまち、住み続けられるまちというのをうたいまして、その後、復興まちづくり市民会議、駅北まちづくり会議ということで、数々皆様と意見を交わしてきまして、結果としてまちづくり戦略というものが生まれたものでございます。

まず、実際の買物ですが、まずはにぎわいがないと、そこにはビジネスは生まれてこない。じゃあどうするかというと活動という部分になるんですが、そういう活動づくりというのも人づくりで、併せて大事なんですが、そういうふうなことだけを言っておりますと、今現在、被災エリアで日々のお買物とかに困っている方は、現実にはいらっしやるわけです。皆さんと考えてきましたにぎわいづくりの筋道は、やはり時間のかかる過程かと思っておりますので、今現在困っている人たちに対しても、私たちは何らかの手だてをしなきゃいけないと思っております。

その一つが、市長の答弁にもございました移動販売の実施に対する市のアシストということでございますし、もう一方は、例えばこれからいろいろにぎわい拠点施設とかいろんな施設について検討を加える中で、あのエリアの中に何らかの形で就業機能を誘導するということができないかといった面も、そういう施設の検討を併せるような形で、市としては考えていかなきゃいけない課題なんだろうというふうに私は捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

では、私のほうから住み続けられる、1回目の人口減少のところでも答えましたが、まず1つは、住民が主体的に動く地域づくりも含めた共生社会というのはまずありますが、やはり住み続けられるというところになりますと、それプラスやっぱりインフラの整備、やっぱり学校ですとかインフラ、それとかあと日常生活に密着したもの、そういったもの、ソフトとハード、そこがやっぱり一体となったものでないとなかなか住み続けられるというところはできないのかなと思っております。そういった意味で、今このエリアだけでなくて全市的なというところでちょっと私の見解を述べさせてもらいました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

移動販売の関係につきまして、若干補足させていただきます。

商工観光課では、買物に不自由を感じている方に対しまして、移動販売をビジネスとして実施する事業者への支援を行っております。

移動販売につきましては、糸魚川駅の周辺エリアでも実績がありまして、要請に応じて移動販売事業者は、販売エリアの拡大ですとか個別訪問にも対応している状況でございます。そのほか大きなお店ではないですが、日用品から食品まで取り扱うスーパーが駅前通りでございます。そのほか商店街が運営する定期市ですとか、商工会議所1階のわいわいマーケット、また、キターレでの販売ですとか無人市ですとかマーケットも見られるようになっておりますので、今後の展開を期待するとともに、また地域の皆さんからもご利用いただきまして、さらに盛り上げていただければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

私の通告書を読んでいただけましたかね。

復興まちづくり計画の住み続けられるまちづくりの実現、これは市長要請のミッションですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

やっぱり議員の今、住み続けられるというところは、一番の根本だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

まちづくりは、住民の話を聞いて理解することからです。私が、本町通りのご婦人から聞いたことは、高齢になると医療と食事が心配。人生の後半に望むのは、本能として食べることへの欲求と健康への渴望。また、大町区のご婦人から聞いたことは、高齢者は住んでいる近くにお買物ができるところが欲しいというものです。

これについて、少し論点を変えて基本的なことを確認したいと思いますが、被災地区の大町区、あるいは本町エリアの特性、都市計画マスタープランなどにおける位置づけについて、都市政策課より詳しく説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、本町通りを含む駅北エリアというのは、昔から糸魚川の中心市街地でございました。本町通りは、特性としまして古くからは加賀街道の宿場町ということで、それ以降も糸魚川駅の近くで利便性が高い金融ですとか商業、いろんな機能が集積して、当然、人も多く集まるエリアという状況でございましたが、やはり近年は、少子高齢化、マイカーの普及等で、あと市役所の移転というのもあったかと思えます。駅北エリア全体に空き店舗等が増加いたしまして、商店街の活力が低下してしまった今のエリアというような状況が特性かと思われます。

都市計画のほうから見た被災エリアの位置づけということでございますが、まず、土地利用の観点からいいますと、やはりあそこは文字通り商業地域でございます。これに関しましては、商業地域っていうのは、田原議員も十分ご存じかと思えますけど、商業に特化するという意味ではなくて、商業に特化したエリアというものをつくるということではなくて、いろんな用途の土地利用を許容するということと、もう一個、敷地面積に対して少し広めに、普通の住居系の地域よりは、土地をいっぱいいっぱい使えるというもの、あと上のほうに高く使えるというところが普通の住居系エリアの違いで、結果として、効率的な土地利用ということでビジネス系の土地利用がしやすいエリアというふうに設定しているものでございます。

もう一点、この25年の用途地域を見直し作業というものを糸魚川市全体で行いました。そのときにも、あそこの地域の商業地域という位置づけは変えておりません。昔から人が住んでいて、今でも糸魚川駅に近い、ポテンシャルの高いエリアだというふうに私どもは位置づけおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今ご説明にあったとおりなんですが、商業地域に住んでいて、食品や日用品が買えない。お買物

の環境が整っていないというのは、冗談みたいな話ですが、住民には深刻な問題です。その矛盾と
いうか計画と現実が乖離している環境に被災者住民が住み続けることを、行政はそのままにしてお
いていいのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まずもって、先ほどの説明も申しましたが、商業地域だから商店がなければいけないということ
ではなくて、商業がやりやすい地域というふうな設定だというご理解をいただければと思いますが、
先ほどの答弁でも私申しました。商業地域だから商業を誘導するというのではなくて、やりやす
いエリアを設定していくというのは、市としては必要かと思えます。

ただ、今、喫緊の課題は、やはり被災されて戻ってこられて、今困っているという方への対応だ
と思えますので、そういう部分に関しましては、少し都市計画という時間軸とは違った流れで考え
ていく必要があるんじゃないかなというふうに私は考えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

次に、被災地ににぎわいをつくるには、誰が何をどのように、いつまでに進めるのか、改めて伺
います。具体には、市が取得したビルの場所の活用方法は、地元の要望を聞いて、まとめて、取り
入れて、計画して示してほしいと住民の方から、先日ご意見を頂きました。

行政としては、以前より子育て支援の場所としたいと聞いていますが、誰が何をどのように、い
つまでに進めるのか、都市政策課とこども課、それぞれの役割から詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、被災エリアの旧井上商会様倉庫跡地のところに子育て施設をつくるという計画が今、動い
ております。これは私どもも先ほど申しました市民会議からまちづくり会議とかいろいろ重ねてき
まして、広いエリアの皆様から、糸魚川にとって必要なのは子育て支援に関する施設だという声を
聞いたのと、もう一個は、行政の課題として今、子育て支援機能が少し、大分窮屈になってきてい
るという、そういう市民の方のニーズと行政課題がマッチ、そこで一致したからというふうに捉え
ております。

ただ、そこで子育て施設だけを今造ればいいというものではなくて、例えば旧東北電力ビルのと
ころも含めたエリアというふうに考えますと、今、市長のほうからも先ほどの答弁にも近いものが

ありますが、複合的な施設を目指すことということの、そういう検討もちゃんと加えること、それについてもっと広く、多く意見を聴くという指示を頂いて、私どもは活動しております。

ただ、青海から能生からいろいろ意見をお聴きして回ったのですが、中心市街地の方は当然、イの一番に聴いておりますが、まだ広く聴いておるときになかなか、私どものペーパーと平面図と口だけではなかなかの音が吸い上げられないですし、その場で絵を見た方が、すぐご意見を頂けるといこともないかと思われます。ですので次は、じゃあ私どもが考える子育て支援施設の施設関係は、こんなことを考えていますというもうちょっと具体的な提案をお示しすることで、もう一度2巡目に、また皆様方にご意見を伺いに回しまして、そのときに、より具体的な絵を見ることで、もう少し逆に市民の皆様からも具体的なご提案ですとかご指摘が頂けるものではないかというふうなそういうやり方で、時間はかかりますが、皆さんから広く意見を聴きながら進めておるといような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

こども課の立場から回答いたします。

先日の一般質問でも私申し上げたとおり、子育て世代の声といいますかアンケートの中で、前から雨天時や冬期間でも利用できる屋内遊戯施設の整備という声が非常に多くございまして、まだ実現できていないという行政的な課題があります。その行政課題の解決というところで、子育て支援施設を整備させていただきたいという思いが1つございまして、そのためにまちづくり戦略の中でにぎわいの拠点施設の方向性というところで、子育て支援を中心とした機能というところでお示ししたということでございます。

都市政策課長が申し上げたとおり、子育て支援を中心とした機能ということで、中心ですので付随する機能については、今後ご意見を伺いながら決めていきたいというふうに思っておりますし、当然整備する、地元で歓迎されない施設では困りますので、そういったところは地元と慎重に意見交換をしてまいりたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

子育て世代が望む施設を造って。大賛成ですよ。そのことと、にぎわいづくりという課題を合わせていく。これもいいですよ。

ただ、まちづくりは、誰とどう関わるかで、その方向性が大きく変わると言われてるんです。今までの糸魚川市のそこら辺の取組が、果たしてどうだったのかということをおの質問で、私は聞きたいと思ひます。

地域の住民の方からは、子育て施設が地域にどんなにぎわいをつくるのかと、地域に子供が少な

いの、なぜ子育ての施設を造るのかと聞かれますが、これはまだ合意形成ができていないということなのでしょうか。まずは、地元で理解され、協力してもらえる子育てであることが大事ではないでしょうか。

そこで、私思うんですが、地元の皆さんとちゃんと膝突き合わせて、糸魚川市の日本一の子供づくりについて話し合う。こういったコミュニケーションの場がないと、この先には進めないんじゃないでしょうか。教育長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

回答させていただきます。

今の私の立場からいいますというと、諸課題解決のために地域の皆様方と一緒に膝を混ぜ合わせてと今、田原議員のお言葉がありましたように、やっぱり直接いろんな情報を交換しながら、やっぱりどこで折り合いをつけられるのか、どの辺の部分まで、その部分のところは許されるのか、進めていいのかというあたりのところをもうちょっと時間をかけて、丁寧にやっぱり進めていくべきだろうというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

あわせて、まずは町なかの暮らしにふさわしい生活環境のための施設としてほしいので、いろいろ話し合う場が欲しいという地元住民の声にどう応えるかです。私は、そこに住むまちづくりのプレイヤーの皆さんの前向きな考えを伺う場、このプレイヤーというのは、そこに住んでる人のことです。そういった皆さんが、どんな思いを持ってるか、そして、その思いを寄せ合う場、そこに出かけて行って、ちゃんと話を聴くことが最も大事だと思うんですよね。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、やはりそういう住民の皆様方の意見を聴きながら進めていく手法で取り組んでおる次第でございます。そういう中で一部の人だけの声を聴いて、その人たちの考え方をまとめていけということでは、私はないと思っております。やっぱりある程度の大きさの枠の皆様方とお話を聴く中でまとめていきたいと思っておる次第でございますので、そういった手法を今までもやってきてるんですが、さらにまた、今ほど担当の話にありましたように丁寧に取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今のご答弁は、ちょっと残念でした。誰とどのように関わるかで、まちづくりの方向性というのは変わっていくんだと。今までやってきたそれがいかなかったのかということをお聞きしたいです。

市長もご存じと思いますが、地元の皆さんの知識・経験、文化への理解、パートナーシップは、糸魚川の宝物です。これを生かし、まちづくりに一緒に取り組む市民としてご活躍いただきたいと思っておりますし、そうすべきです。また、ここにいる行政の皆さんの知識・経験、文化への理解、パートナーシップも同様に生かすべきものと思っております。この官民連携について、市長はどう考えられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もお聞きいただけたいのは、ちょっと残念であります。私は、今までも皆さんの声を聴きながら、そして総合的にまとめて、進めてまいっております。決して、その意見は無にしているわけではございません。その時々にはちゃんとお答えさせていただいております。できないものではないという言い方をさせていただいております。そういう形をやはりキャッチボールをしながらまとめていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

建設的な話をしたいと思っております。市が取得したビルのエリアの活用について、専門のお立場から伺います。

都市政策課とこども課は、子育て施設ということで決まっていますが、一方で、大町区の方からは、1階にコンビニエンスストアと温浴施設、2階に子育て施設、3階に展望のよい集会施設と集合住宅という案を頂いております。

コンビニエンスストアの出店は、立地とマーケティングがありますが、以前に市内の経営者の方から、市に言われれば条件次第で出店すると伺ったことがあります。ぜひ検討してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤喜代志君登壇〕

○産業部長（斉藤喜代志君）

どうもご意見ありがとうございます。コンビニとかの話については、かなり早いうちからいろいろ出てきたところもあります。あそこのエリアの最初の段階で、サウンディングという民間の活用

についてのアイデア聴取をしたこともあるんですが、コンビニとかという話もありました。そのときには、やはり今ですと大型駐車場が必要だということで、あのエリアでは厳しいというようなこととお話として伺っております。

私も、市から頼まれればという形でのコンビニ出店というのは本当に可能なかどうか、やはりあそこで商売として本当に成り立つのかどうかというところ、それが大事ですし、今ほどあった温浴施設、入浴施設についてもしっかり運営ができるのかといったところ、そういったところをしっかりとやりながら計画を積み上げていかなければいけないというふうには思います。そういった話は、皆さんと市民の方々と、エリアの方も含め、そういった場を今後持てれば、やはり持っていきたい。ただし、そのときにはやはり運営も含めて、本当にその施設が将来維持できるのか、そういったところも含めた中での話として実現可能というところを探っていく。そういった形で、今後はまちづくりというのは進めていかなければならないというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

私からは、相馬御風先生の資料を主とした郷土資料館、図書館のアネックスとすることを提言します。

これは以前より、地元の方から出ていた案です。御風先生の功績と糸魚川文化に馴染んだ地元の方に参加協力してもらい、地域の学びの先生となっていただき、糸魚川文化を伝え、広めていきましょう。文化振興課、生涯学習課、それぞれのお考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

駅、日本海、中心市街ということで、回遊性、利便性を高めるためには、住民の方、また地元の皆様から課題・要望をお聞きする中で対応したいというふうに思っていますが、当課の関係する歴史・文化の面では、課題・要望等ございましたら、当然、関係課と協議しながら対応してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

市民図書館につきましては、建設から40年を経過しておりますことから、今後、都市機能誘導施設でもありますことから、その辺を含めて今後検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

そうなんです。都市機能誘導施設なんですよね。そういう地元の声もあったんで、ぜひ進めていただきたいと思います。

それで、私の考えは、そこをみんなの場所にするということです。これは町なか大家族の考えとも合致します。一番の目的は、いろいろな人が来て、ひとときを過ごす心地よい場所をつくることです。さらに、そこに親子が過ごす仕掛けを考えられないか。また、市民が思い出をつくる場所とできないかとも考えます。なので、どんな機能の建物となるかは、まだ輪郭線で描く程度でもよいと思います。でも、このイメージを地元の皆さんと共有することから始めて、具体化していかないと、そこはみんなの場所とはならず、まちづくりの核となるところのリノベーションは、多分成功しないでしょう。担当課のお考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤喜代志君登壇〕

○産業部長（斉藤喜代志君）

お答えします。

やはりこれからのまちづくり、今、議員おっしゃったようなこと非常に重要かなというふうに思っております。そのときにやはり大事なのは、先ほども私申し上げましたが、誰でやっていくかのところで、やはり行政だけでやるものではないですし、民間の皆様、市民の皆様とやっていくもの、市民の方たちじゃなきゃできないものというのもあるかと思います。そういった話をしながら皆さんが集える、そういったエリアにしていく。そういうことが大事かというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

そこで、企画定住課が市内各地で取り組んできた地域づくりプラン、この大町区バージョンの実施で、住民の声を十分に聴く機会を設けて、まずはしっかり対話しませんか。胸襟を開いて、虚心坦懐に話し合いませんか。市長、今日、私は、膝を折り、手をつき、こうべを垂れてこのことを市長にお願いいたします。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご承知のとおり、地域づくりプランについては、やはり地域が主導となって、地域がまとめていくものでございます。そして、やはり地域の考え方をどのようにしていくか、そして、行政の考え方とどこですり合わせるかという形で、今、他の地域、皆さん取り組んでいただいております。

そういうことで、駅北大火と、当然そういう1つの災害のあった場所ではあるわけですが、地域づくりプランについては、やはり他の地域と同じような考え方で地域がどのように自分た

ちの町をどのように考えているか、そういうところはやはり必要であろうかと思っております。その辺をやはり1つのエリアとしておまとめいただいて、すり合わせという形に持っていければ、行政と、その辺をどのように進めていくかという形で、私はこれから行政も連携を取っていけるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

会議の手法はともあれ、皆さん、市長、行政ともっとお話ししたい、そういう気持ちでいるんですよね。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに地域づくりプランの前段は、まず話合いというのが一番大事になってまいります。地元での膝を交えてのコミュニケーション、まずそこから始まるものと思っておりますので、そういった取組から進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今回質問に上げましたキターレについては、建設の目的の確認、指定管理者交代の理由、地域の課題解決についてなど、これは建設産業常任委員会で確認させていただきます。

また、本町通りのイメージ形成については、宿場町の風情の再生と観光活用など、再質問を準備しましたが、次回の一般質問で伺いますので、よろしく願いいたします。

以上で、終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。再開を2時55分といたします。

〈午後2時41分 休憩〉

〈午後2時55分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕